

【技術とコスト】

濱 博一 (年頭号から代理…です…(^;))

昨年末に大阪に帰省したところ、父親が使っているノートPCの電源ケーブルに黒いビニールテープ。聞くと以前補修しておいたコネクタとケーブルの間がまた接触不良になっている様子。ばらせないタイプのコネクタなので、コネクタごと交換すれば、まだ使えそうでした。

早速ミナミの日本橋へ部品の調達に。お江戸の日本橋は「にほんばし」。大阪ミナミの場合は、「にっぽんばし」同じ漢字でも読み方が違います。大阪人はなんでも略するのが好きで「日本橋一丁目」交差点は「日本一」交差点…(^;)

電子部品の調達には秋葉原によく行くのですが、日本橋は久々。街の様子も大分変わりました。アキバ(秋葉原の略称)なら店が判るのですが、日本橋は不案内なので結局町中を歩くことに。で、みつけました。コネクタ。

両親の家に戻って半田ごてで取り付け、若干の調整をして要した時間は10分程。ノートPCは快調に動作しています。V(^)v

さて、ここで問題です。部品代はいくらだったでしょうか?…。メーカーに修理に出すと間違いなくAC/DC変換器ごと新品交換で約1万円超でしょうね～実は部品はたったの84円!ところが我が家にある半田ごて・半田が実家には無く、これらが約2,000円。プラス往復の交通費…。家族ですから技術料は無料。

部品より工具や調達交通費が高いのはやむを得ないとしても「『できない』がコストに直結する」ことを改めて実感した次第。さらに言えば「『知らない』もコストに直結する」と思うのですが…みなさんのご経験は如何でしょうか?

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



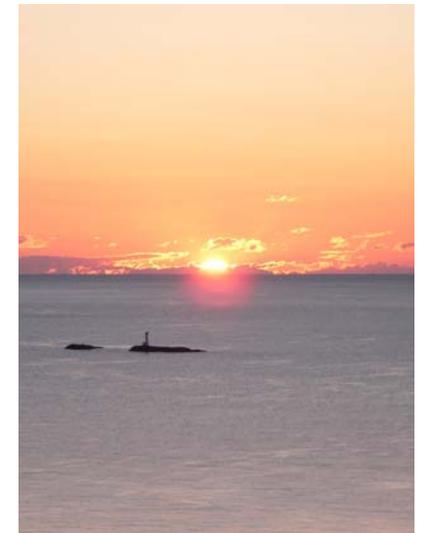
2008/01
(株) アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

謹賀新年

睦 月



by hama

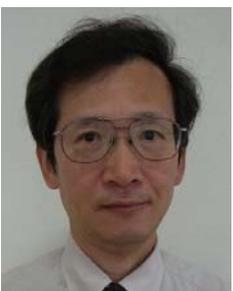
大学に職を得て25年になる。この間にミニ二
 アムを挟んで世界は大きく変化したが、昨今の閉
 塞感はいずれのものではないだろう。明るい未来
 が思い描けない。物質的豊かさ引き換えに失っ
 たものがあまりに大きく、多い。来し方を振り返
 るにはまだ早いと思うのだが、私が物心ついた、
 明るい未来を思い描いて活気にあふれていた昭和
 30年代を懐かしむ映画がヒットするのを見る
 と、私の感覚は社会とずれていないように思え
 る。

大学に入学した頃から突如音楽を聴きだして、
 オーディオ機器やLPレコードになけなしをつぎ
 込んでいたが、学生が買えるのは廉価盤と呼ばれ
 た1960年代の録音だった。LPからCDに媒
 体が替っても、買うのは発売直後には懐具合との
 相談で買いそびれた録音の再発売ものであること
 が多かった。CDの発売開始が奇しくも25年前
 である。最近では最新録音も買えるゆとりがで
 きたが、繰り返し聞くのは1980年代の録音で止
 まり、それ以降のものにはなかなか食指が動かな

い。最近の録音は聞いていてゆったりと音楽に浸れ
 ないのである。昔の廉価版LPをCD化したものを
 買いこんで聞くと何とも心和む一時を得ることがで
 きる。音質は良くないが、大らかさゆとり等が感
 じられる。

建築設計に始まった偽装の広がり止まるころ
 を知らないようであるが、モラル・ハザードは物質
 的繁栄の陰で失ったものの顕在化なのか。純粹に演
 奏者の内面を表出する演奏が少なくなり、技巧的に
 は優れていても表面的な演奏が多い最近の傾向に、
 社会の変化がこんなところにも表れているのかと感
 じる。物質的繁栄は我々にとってパンドラの箱だっ
 たのではなからうか。

とは言え急速に変化したと思えるこの25年は意
 外に長い。今、大学で5期後輩の子息が私の下で修
 士論文の仕上げに奮闘している。希望に満ちた未来
 ある若者である。彼は25年後来し方を振り返った
 時に何を思うのだろうか。



【プロフィール】
 近田康夫(ちかた やすお)
 昭和三十年金沢生まれ
 金沢大学自然科学研究科環境科
 学専攻教授・工学博士
 専門：橋梁工学・構造システム
 最適化

濱のつばき 『招福』

俗に女性が結婚相手を選ぶ条件は、三高と言われ
 た時期があった。曰く、身長が高い・学歴が高い・収
 入が高い。女性によって「許容範囲」はまちまちで
 あったろうが、男性から見ると、甚だ失礼な言われ方
 だったと記憶している。

ところが昨今、周りにいる適齢期の女性から、この
 条件を耳にすることは殆ど無い。三高で選択した結
 婚生活の結果がそろそろ世間的には出ているので、
 続く若い世代は何かを学んでいるのかも知れない。
 選択肢が多いことが豊かであり、幸福であると経
 済論者はいう。

心理学系の話として聞いたことがあるが、普通の
 人は同時に3つ5つの判別ができるという。7つを判
 別できるのはかなり優秀な方らしい。

普通の人が楽にこなせる以上の選択肢が押し寄せ
 る現代。多くの選択肢や情報の前に「よりよい」選択
 をせんと躍起になるうち、心に少なからぬストレス
 を感じているのが現代人ではないのだろうか。

そのために精神を痛め、癒しを求めてまた選択を
 繰り返す。さて、この果てに安らぎはありやなしや。
 幸福とは、状態や条件のことではない。

感ずるものだ。感受性。感ずる心。感じられる心。
 これらが幸福を招くベースとなっていまいか。

道端に咲いている一輪の花を見出したとしよう。舗
 装の割れ目から黙々と芽を出し、可憐な花を咲かせる
 生命力に深い感動を覚え、また置かれた環境のせい
 するのではなく、成すべき事を成すことの大切さに気
 づき、学ぶこともできる。

状況がどんなに厳しくても、その一輪の花から幸福
 に満たされることはできるのではないか。

例えばささやかでも、より多くのことを受け取り、感ず
 ることができる者。幸多き人となる。

アンテナを正しくし、線を繋ぎ、スイッチをいれ、
 チャンネルを合わせなければテレビは映らない。画面
 に映っていない上での空では心に残らない。道端の花や
 何かのきっかけから、学べることはあるにも関わらず、
 感受性は鈍り、心のチャンネルは合わず、ほんやり眺め
 ているだけでは何も映らないか、映っても只流れてゆ
 くのみではないか。

こうして、幸福は感じ取られること無く流れていっ
 てしまっているのかも知れない。だとすると、なんと勿
 体無いことをしてはいまいか。

幸福を、それと感ずることができたとき、それは感謝
 と表裏一体となる。感謝の多い人、感謝深き人はまた、
 幸福である。

本年も、みなさまに多くの幸福が訪れ、それを感じ
 ることができましよう。

『多様な構成メンバーの組織を運営するには（その2）』

（株）アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

今回は、前回前述した派遣社員だけで構成された組織運営についてのレポートの続きを書かせてもらいます。

僕が担当している組織には10名のメンバーがいます。このうちの3人が9月中旬に入社し、2人が10月初旬に入社し、残りの5人が10月下旬に入社しました。全メンバーが揃ったところで、まず実施したのが懇親会でした。僕は、懇親会の場を利用して一気に組織を固めることを考えました。

この時のメンバーの状態は、入社した順番で何となくグループが出来ていました。僕がこの時考えた事は、メンバー同士がお互いの事を良く知り合い、翌日以降のコミュニケーション環境の地ならしをするという事です。何も考えないで懇親会を始めると、それぞれ何となく知っている者同士が固まって座ることが容易に想像されました。だから席は籤で決めました。

また懇親会は、ちょっと長めの自己紹介をする場と徹しました。自己紹介の中身は、①子供の頃の自分はどんなだったか、②前職とこの会社に来て期待していること、③最近感じた喜怒哀楽のエピソードを1つ、④職場で使って欲しいニックネームの4つを語ってもらう事です。この4つを含めた自己紹介をすると、1人当たり10分程度かかります。見本を示すために、1番手は僕がやりました。ここで一気に流れを作ります。流れさえ作れば、後はこの流れに沿って場が動き出します。

普通の自己紹介は②についてしかやりません。しかし上記4つについての自己紹介をすると、それぞれのメンバーの個人的な背景が垣間見ることが出来ます。一通り自己紹介が終ってからは、メンバー同士が自己紹介を聞いて興味を持った事柄を話し合うようになり、お酒も入っているので、それぞれの関係が一気に近づきます。ニックネームを決めることで、お互いの事を他人行儀にさんづけで呼んでいた関係から、ニックネーム呼び捨てで話し合える関係となりました。これで組織固めの第1段階終了です。

メンバーとは日々営業同行を行います。営業同行の際大切な事は、それぞれの営業同行の目的をハッキリさせることです。つまり、営業した結果、お客さんがどんな状態になればいいのかを予め決めておくことです。今回の組織では、初回訪問で受注が決まるような商品を扱っていません。

それで、①お客さん現状をヒアリングする、②我々が扱っている商品・サービスの概要を簡単に説明する、③お客さんに我々の商品・サービスに興味を持ってもらう、と3つぐらいある段階の、今回はどこを目指すのかを決めます。そしてこの商談を、メンバー自身が主導権をもってするのか、僕が主導権を持って行うのかを決めます。

商談が終わってから、今回の目的に照らして結果はどうだったのかを振り返ります。上手く行った事は何で、上手くいかなかった事は何か。もしもう一度やり直す事ができるならどうするのか。こういったことを丁寧に振り返ります。

※以下次号に続く

『温泉への誘い（58）－ 源泉探索の巻 －』

著者ご本人のご希望により、インターネット版ではご覧いただけません。

『融通無碍（ゆうずうむげ）』

ナチュラルコンサルタント(株) 第1都市計画部 木内 誠

平成十九年も早や年の瀬。例年のごとく一年の仕事を省みた。中小企業の都市計画部所属ということで業種の間口は広く、公共工事の削減傾向も相まって、年々受注する業務の内容は多様化をみせている。

担当した業務だけみても、今春の震災関連業務をはじめ、面的・線の計画業務、環境関連業務、各種設計業務に至るまで様々な分野におよんだ。

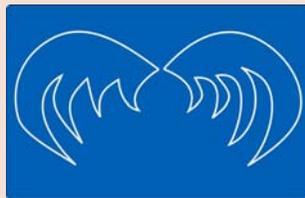
今年話題を掻い摘んでみると、書籍「進化しすぎた脳」（著者：池谷裕二）では、「人間は曖昧な記憶しかもてない」との説が謳われた。京都大学霊長類研究所は、「チンパンジーの瞬間的な記録力は人間を遙かに凌ぐ」との実験結果を発表した。両者の背景にあるのは、人間は進化の過程で高度な記憶能力を排除してきたという仮説。他方、今年の流行語に「鈍感力」という造語がノミネートされた。本来の意味とは異なるかもしれないが、「忘れていく力」とも解釈できる。

過去の記憶を全て鮮明に記憶しているのは、情報過多の現代を生き抜くことはできない。辛いことや不安な感情は次々と排除していかなければ精神は病み減んでいく。

忘れっぽい性格というのは、決して悪いことではないと思う。最低限の、曖昧で抽象的な記憶しか残っていないからこそ、必要に応じて断片的な情報をカテゴライズし、過去にとらわれない斬新な発想で創造することができるのではないだろうか。

「融通無碍」とは「考え方や行動にとらわれるところがなく自由であること。形をもたず、周囲の状況に対応できる様」を指す。世情の変化は著しく昨日の常識は今日の非常識、遭遇するステージは過去の知見を越えているご時世である。この現代社会に順応していく在り様として融通無碍は一つの選択肢といえる。ただし、如何に形を変えようとも自己、すなわち信念という基幹を見失ってはならない。

平成二十年も一層の多様化を見せるであろう業界において、様々なステージに立てることに感謝し、自分力の飛躍を誓う。



by M.Z

『薄っぺらな精神的余裕』

(株)アスリック 四尾 泰

2008年、怒りを表現しなければ損とばかりにクレマーに走る、もしくは自己の正当性を前提として対象を批判するだけの風潮がさらに高まり、嫌なシーンが増えていくのではないかという気がする。

「もったいない」という言葉が日本ならではの文化に裏打ちされた言葉であり、訳すると長文になってしまうということで、「もったいない」が国際語になっているということを知った。日本の文化はここかしこに「禅」、広く「仏教」の規律が生活の中に溶け込んだ結果であり、知らず知らずその「作法」をしていることに気付くことがある。

しかし、合理的という旗のもと、様々な積み重ねとしての日本の文化は希薄になり、日本人の持っていた精神的「余裕」「遊び」がなくなり、コミュニケーションの中での摩擦エネルギーばかりが高くなってきているのではないだろうか。

トマトケチャップの瓶の底をたたいて中身を出そうと思ったら、瓶が割れて手を怪我し、多額の賠償金をまるで成功事例のように伝える文化は、どうも素直に受け入れる気になれない。

そんな文化へ傾向しているから、銃の乱射が日本でも起こる・・・とは思わないが、精神的にギリギリの状態であれば、ちょっとしたことがトリガーとなって、自分を見失い大惨事を招いてしまう・・・とは、単純な論理すぎるだろうか。

正しい生き方など誰も示すことができないし、可能であるとしても示したとたんにドン引きの状態になるのは目に見えている。

ヒーローの一言が素直に正しい「姿勢」であると多くの人々が認識した時代は大昔のことであり、ヒーロー不在の現代とは言われるものの、ヒーローが出る前に潰される現代であり、ヒーローは「カッコワルイ、イイコちゃん」と評価されるのが関の山であろう。（出現を待望されたにも関わらず、出現すると攻撃されたイエスキリストの時代に似ている？）

では、どうすれば精神の摩擦エネルギーが発生する前に処理することができるのであろうか。

守られすぎで純粹培養された結果、痛みにも過剰反応している、もしくは守られた経験がないとばかりに反発が先行する意識反応を個々人が見直さなければ、ヒーローすら生まれぬ寂しい時代、暗黒の時間はなかなか明けないだろう。

初期仮面ライダー、ウルトラマン世代の私としては、「カッコイイ」ヒーローの再来を期待している。暗闇の中だからこそ光がよく見えるとも言うので・・・。